



### 地球を守ろう

—小さなエプロンから—

エプロン通信員

宮里 希見子

少し前のことになりましたが、倉浜衛生施設(沖縄市)へ見学に行く機会がありました。というのも私たち宜野湾市民が出しているゴミが一体どこで、どう処理されているのか疑問に思ったからです。

まず職員の方から説明を受け、実際に施設内を見学しました。収集車から搬入された大量の燃えるゴミは、大型クレーンによって空中に持ち上げられます。そして分類のため、袋が引きちぎられ、中身がバラバラに振り落とされるのです。

本来、分別するべきペットボトルがクレーンの先にさらされているのを見た私は、我が家のゴミも他人の目にさらされている事実を知り、驚愕の思いでした。平成二十二年には満杯になってしまいうこの施設は、新たに税金を使い建設されます。

また平成十七年度の県内廃棄物の不法投棄は、その半分が家庭ゴミで占められ、モラルの低下が懸念されているのが現状です。

これ以上、ゴミの山を増やさないよう、一人一人が小さな「気づき」を芽生えさせ、やがて大河に繋がってゆくよう努力しなければなりません。

以前、掲載した嘉数小学校の子ども達は、三月に車イスをこども病院に寄贈し、今年も引き続き在校生がプルタブ集めを行う予定です。子ども達は団結し、協力し合って夢を叶え卒業していきました。私たち大人も地球を守る夢を叶えませんか？ まずは小さなエプロンから...

※倉浜衛生施設組合

お問い合わせ先 ☎ 九三七七―九九四二



## 茶ぐわーゆんたく 38

### 2枚の写真から...

一九四五(昭和二十)年四月一日、沖縄本島に上陸した米軍は、その日の夜半には宜野湾の安仁屋に達し、四日には野嵩に収容所を設置しました。米軍は、当時、普天間にあった中頭教育会館や中頭地方事務所、沖縄県立農事試験場普天間試験地(これらは現在の普天間高校帯にあたる)等の施設や周辺の建物を利用して、米第九六師団司令部を設置しました。

左記の二枚の写真は、米軍が普天間に司令部を設置した頃のもので、写真①からは宜野湾並松の後ろ側に

に農事試験場の門が見えます。並松の前に広がる湿地は、大雨には野嵩方面からの雨水が流れ込む水はけの悪い場所でした。左側奥は普天間宮があります。

また、写真②は普天間から野嵩方面を見たもので、大正期に開通した並松の脇道を米軍車輛が南へ進む様子です。右側の奥には普天間国民学校の校舎が見えます。

この二枚の写真から米軍上陸後の間もない頃の普天間の様子がうかがえるとともに、進軍する米軍の余裕さが感じられます。



写真①



写真②

米第96師団司令部が置かれた普天間 1945(昭和20)年

#### パネル展「沖縄戦と戦後初期の宜野湾」(仮)

いつ: 6月18日(月)~29日(金)

どこで: 宜野湾市役所本庁1階ロビー

内容: 宜野湾市における沖縄戦から戦後の人びとの復興を振り返り、宜野湾市の戦後と平和について考えてみたいと思います。

☆「宜野湾市史」への問合せ  
教育委員会文化課 ☎893-4431

